

Weekly Market Report

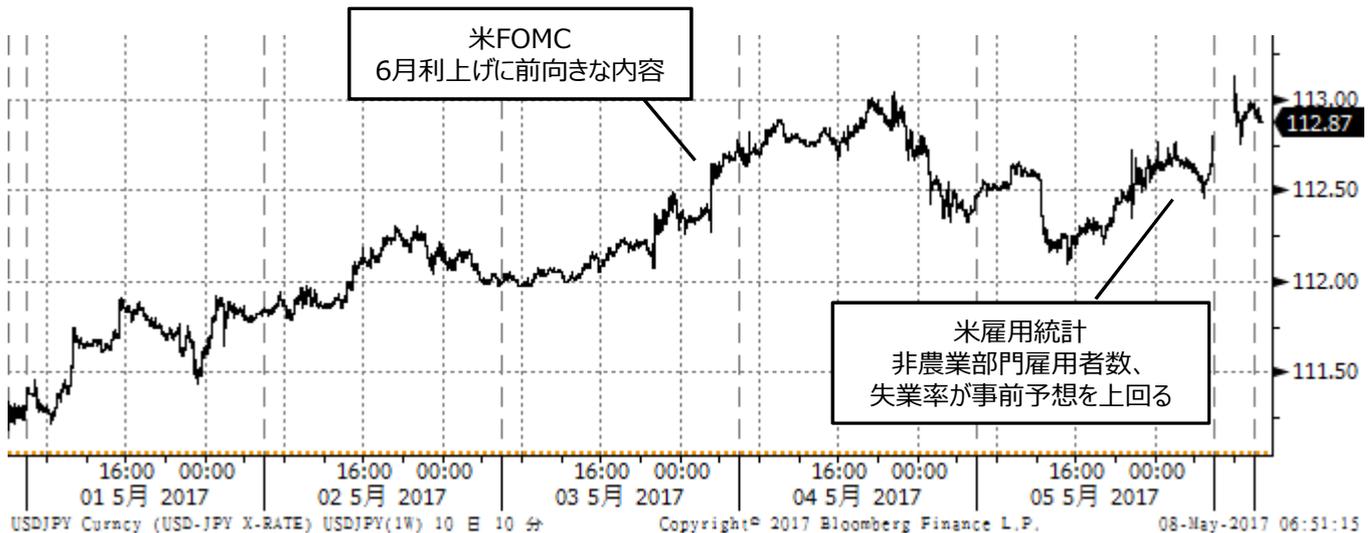
FX, JPY Interest Rate, Topix

May 8, 2017

1. 為替相場概況

FOMCで6月利上げ期待高まり、緩やかな米ドル高進む。

USD/JPY (1週間の値動き)



(出所) Bloomberg

コメント

先週の米ドル円は111円台前半からスタート。1日に発表されたISM製造業景況指数が事前予想を下回ったこと等もあり、一時ドル売りとなる場面も見られたが、6月の米利上げ期待が維持されたこともあり下落幅は限定的となった。3日のISM非製造業景況指数は事前予想を上回り、FOMCでは年内あと2回の利上げが示唆されたことでドル高が進み、4日には一時113円台まで上昇する場面も見られた。その後は原油市況の悪化等を背景にドル円は調整売りに押されたものの、オバマケア代替案が下院を通過したことや、米雇用統計が良好な内容となったことでドル円は再び上昇。結局、ドル円は112円台後半で越週している。

今週は仏大統領選でマクロン氏勝利を受け市場には安心感が拡がりそう。やや材料出尽くし感もあるが、Fed高官の発言機会も多く6月利上げが意識されやすいため、ドル円は底堅い展開を予想する。

(市場営業部/川口)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
5/11(木)	(日本) 貿易収支	+7,869億円
5/11(木)	(英国) 金融政策決定会合	-
5/12(金)	(米国) 消費者物価指数(前年比)	+2.3%
5/12(金)	(米国) 小売売上高(前月比)	+0.6%
5/12(金)	(米国) ミシガン大学 消費者信頼感指数	97.0

USD/JPY (2年間)



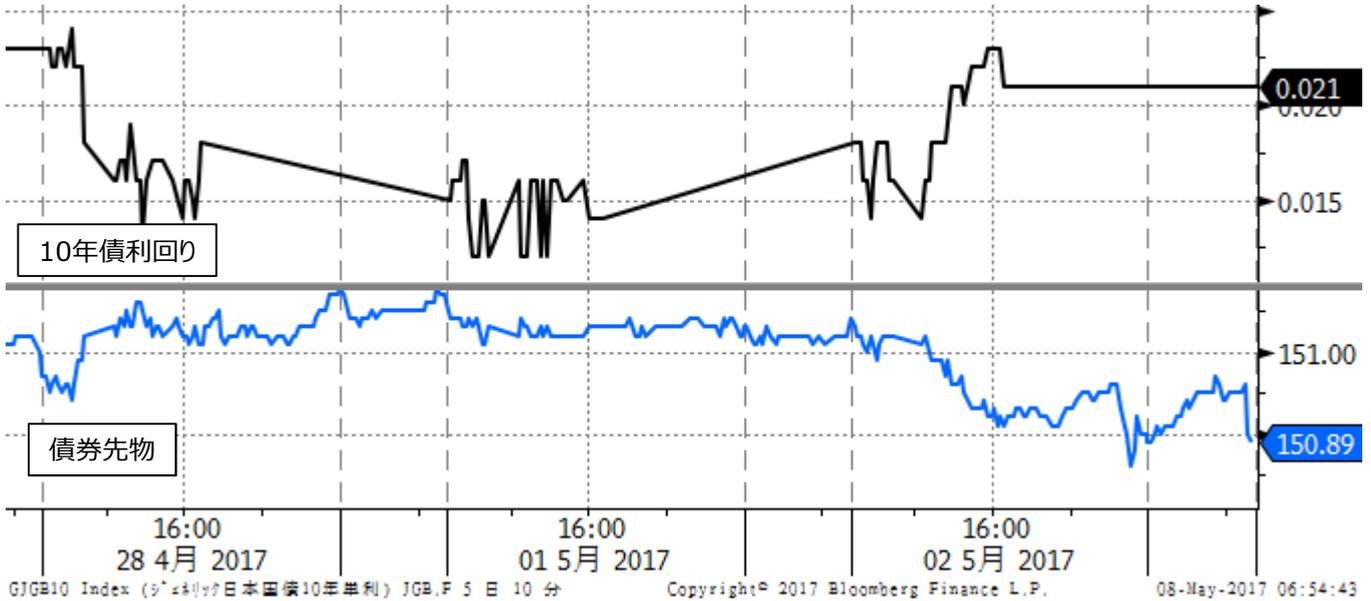
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
今村仁	111.50 - 114.50	先週のドル堅調地合いを受け、ドル円相場は底堅い展開を見るも、ドルの買い手不在の中上値は限定的か？
川合隆行	111.50 - 114.00	仏選挙は無事終了し欧州政治リスク懸念後退。6月FOMCでの利上げ期待上昇から、ドル円は底堅く推移すると予想。

2. 円金利相場概況

今週は長期から超長期ゾーンにかけて金利上昇が見込まれる

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）

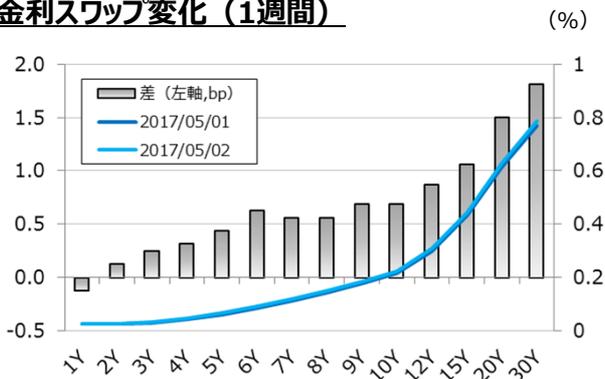


(出所) Bloomberg

コメント

先週の円金利相場は、GW休暇を控えたポジション調整により債券売り優勢の展開となった。週初は材料の乏しい中、小動きに終始。1日発表となったPCEデフレーターやISM製造業指数等の米経済指標は予想を下回る結果となったものの、5日発表となる米雇用統計の好結果への期待や6月米利上げへの期待拡大によりドル円相場は底堅く推移。翌2日は日経平均株価が連日上昇したことを受けて、円金利は上昇。10年国債利回りは0.021%で週の取引を終えた。一方、イールドカーブは超長期ゾーンを中心に金利上昇したことからベア・スティーブした。週末の仏大統領選はマクロン氏が勝利したことから週明け8日はリスクオン優勢となり、円債は売り優勢でオープン。今週は9日に10年債、11日に30年債入札が予定されている。米金利上昇の流れを受けて長期から超長期ゾーンにかけて金利上昇が見込まれることから、イールドカーブはベア・スティーブする展開となるだろう。(市場営業部/浅川)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（2年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
後藤賢太郎	0.00% - 0.06%	連休中の海外イベントや米金利上昇の流れから円債は売り優勢なるも日銀オペ等需給要因が相場下支えの構図は変わらず。
小野口裕美子	0.00% - 0.05%	週末の米雇用統計・仏大統領選を波乱なく通過しリスクオンのムード広がるも日銀オペへの思惑から上昇幅は限定的か。

3. 今週のトピックス

ユーロ相場見通し

欧州景気回復と政治リスク後退から、ユーロは主要通貨に対して堅調な推移を予想

ECBも今後は緩和縮小方向か

欧州中央銀行（ECB）は4月27日の理事会で政策金利を現状のまま0.00%に据え置くことを決定。また金融市場に資金を供給する量的緩和政策についても、17年末までは国債や社債を合計で月600億ユーロ購入する事を示唆。【図1】に政策金利と消費者物価指数(HICP・コア指数)の推移を示したが、政策金利は据え置かれている反面、HICPは上昇を続けており、4月の数値は1.9%とECBが目標としている2%にほぼ到達。また、HICPから変動幅が大きいエネルギーや食料品を除いた数値であるコア指数も4月は1.2%と約4年ぶりの高い水準となった。今回のECBでは従来の政策が維持されたが、景気が回復し、インフレも緩やかながら底入れしつつあるとみられる事から、今後緩和縮小へ向けての具体的な動きが出てくるだろう。

仏大統領選後、政治リスク懸念後退

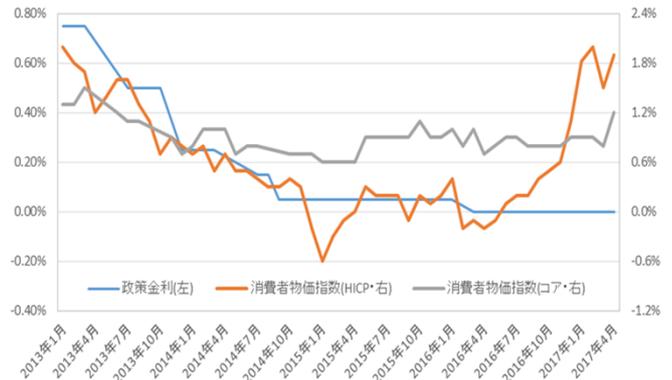
4月23日のフランス大統領選第一回投票では事前の予想通りマクロン氏（中道）とルペン氏（極右派）の決選投票進出が決定。ユーロドル相場のリスク・リバーサルは、大統領選第一回投票前は、反EUの2候補を含む4候補が横並びの状態となりユーロ安への警戒感が高まったことでマイナス幅が急拡大。しかし投票後はマイナス幅は大幅に縮小しており、市場関係者の間でユーロ安への警戒感が大きく後退したことが分かる【図2】。5月7日に行われた決選投票では、マクロン氏が勝利したが、既に予想されていた結果であり、フランス大統領選挙における政治リスクは後退。大統領選後のユーロ買戻し余地は限られる見込み。

ユーロ相場は底堅い展開か

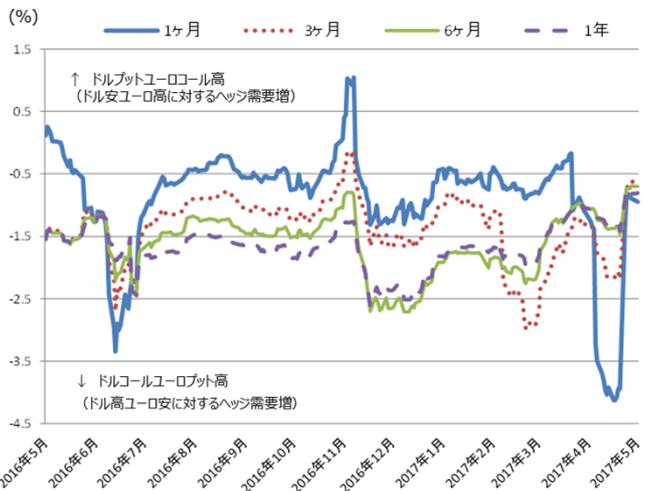
仏大統領選後のユーロ相場動向は各国の金融政策動向が焦点になるだろう。米国では5月のFOMCで来月の利上げ観測を強める結果となっており、年末にはバランスシート縮小に着手することも予想される。よって、ドルの下値も堅く、当面のユーロドルは1.10ドル台を中心に推移すると予想する。一方、日本は依然緩和維持方針であることから、欧州の政治リスク後退、景気回復を背景に、ECBが金融緩和縮小に方針を切り替わればユーロ円はもう一段円安方向へ進むことが予想される。今後、英・独・伊の総選挙による欧州政治リスクが高まり、主要通貨に対してユーロ売りとなる懸念は残るものの、前述の通りユーロ下値は堅く、当面は堅調な推移を予想する。

(市場営業部/川合)

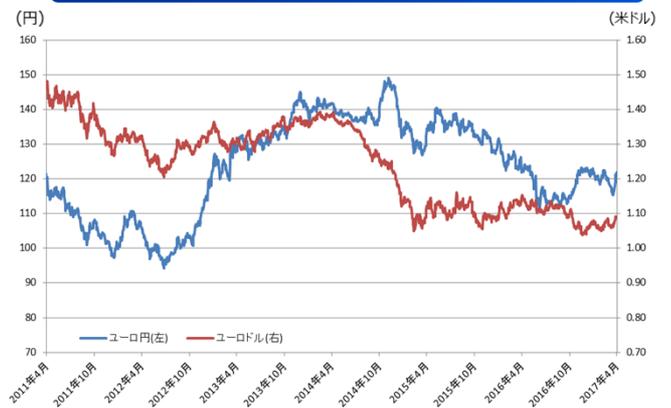
【図1】政策金利と消費者物価指数



【図2】ユーロドルのリスク・リバーサル



【図3】ユーロ相場（対ドル、対円）



(出所 Bloomberg)

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会